

ステップアップ 十勝農業

都市エリア産学官連携促進事業②



山内博士

ソバ・豆類の健康機能性スプラウトの研究開発

製品化の流れ構築を

「豆類とソバの種子を原料に、健康増進に役立つ機能性成分を多く含むスプラウト(植物の種子から出た芽の部分)を製品化する。近く新商品を試験販売する見込み。研究リーダーを務める北海道農業研究センター畑作研究部の山内昭子学博士は健康増進を願う。

スプラウトは「カイワレ大根と豆類」といってはなじみ深い。欧米では、フロコリースプラウトが抗がん作用や胃かいよう

の原因種とされるヒロリ栗の死滅効果を持つとして有名だ。栽培は水温20度の水に種を一晩漬けて出た芽を、ポット容器に移す。光を当てて適度な水分を与えると7-10日後まで「カイワレ型」スプラウトが出来上がる。芽が絡み合った形状の「アルファルファカールラウト」は約4日で育つ。栽培は畑地を使わず書スベ

スで育ち農産物といふよりも、さながら工業製品のように作る「ことが技術的に可能だ。販売に備え、安定的な品質で大量生産できる体制の構築も研究目標の一つになっている。

ダツタンソバ

使い試験販売

「1つの地域で、地場産素材を使って製品化する一連の流れができていく所は少ない。十勝での流れを築くことができれば、食品のブランド化につながる」と山内博士は期待を込める。種子をスプラウトにすることで商品価値は一般に10-15倍に跳ね上がるという。北農研が



豆・ソバ類種子の付加価値を目標して温室で栽培されたスプラウト

開発したダツタンソバ「北米1号」を使ったスプラウト製品の試験販売を予定している。北米1号は血液の流れを良くするポリフェノールの種類が豊富で、前後も含め、1日30g摂取できれば1kgに相当する

1次製品の付加価値高め新産業

を簡単に取れる。腸神経細胞の保護作用を持つ「ケルセチン」も含まれ、癌発生予防の期待されるという。

山内博士は「一般に1次製品は工業製品に比べ生産に時間がかかり、値段も安い品物が多い。1次産品を加えて製品化した付加価値を高めるとは新産業を興すことになる」と道民を語っている。

(田島 幸)

【参加研究機関・企業】
北海道農業研究センター、
樽広畜産大学、森原 幸
親、北海道海洋牧場 上
川郡農協(町)
事業実施の最後となる3年目には、視野(すの)を広げ、他の種子でもスプラウトの開発を目指す。現在3種ほどを実験中。北農研でソバ・スプラウト実験栽培を温めて進め、品質の分析作業を行っている。粉末状にして機能性素材商品として売り出すなどの展開も視野に入れている。